

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2795800099
法人名	株式会社 ニチイのほほえみ
事業所名	ニチイのほほえみ長原
所在地	大阪府大阪市平野区長吉長原東 3丁目2番5号 (電話) 06-6760-5851

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	2008年1月31日	評価確定日	2008年3月20日

【情報提供票より】(平成19年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 19年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人, 非常勤 9 人, 常勤換算	11.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	光熱費等実費 円
敷 金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> 340,000 円 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		約1200 円

(4) 利用者の概要(12月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あかばねクリニック 長吉総合病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大阪市営地下鉄長原駅から徒歩近くに位置し、向かいには社会福祉協議会等の地域のネットワークの中心となる施設があり、地域の行事などに行き来しやすい環境にあります。ホームは広く明るい雰囲気があり、入居者とスタッフとが良い関係を築きながら、楽しく役割を持てるように生活を支援しています。周囲に坂も少なく車椅子でも毎日散歩に出かけたり、地域のボランティアに来てもらったり、ホーム外との交流を深め地域の中での生活も支援しています。個々の入居者が、その人らしく暮らしていくことを少しずつ実現していこうとしているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価を受けて、カンファレンスを充実していく取り組みや入居者の生活の充実のために趣味が行えるような環境作りを行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が記入したものを会議にて見直し、職員の意見を出し合い仕上げました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、社会福祉協議会の会長や地域包括センター、民生委員、地域ネットワーク委員会推進委員、家族の出席があり、ホームの行事報告や要望、助言などが話し合われています。会議の出席者の助言や協力により、ボランティアの活用が増え入居者に楽しんでもらえる機会となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ほほえみ通信を発行したり、入居者全員の家族が少なくとも月に1度は面会があり、直接個々の様子について伝えていきます。また、必要時には電話連絡をし、適時にその様子を伝えていきます。定期的に懇親会を開催し、希望や要望を聞きサービスにつなげていきます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの向かいには、社会福祉協議会等の地域のネットワークの中心となる施設があり、福祉祭りや地域の行事などに参加しています。また、老人会の食事会等にも参加していきたいと考えています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の自立と尊厳を守る」という企業理念があり、改めて事業所独自の理念は作られていません。	○	お客様が、その人らしく穏やかに地域に根付いた生活を支援することを心がけており、それを踏まえスタッフ皆で話し合い、理念として作り上げることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念を毎日唱和し、会議の時に理念が実践できるように話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの向かいには、社会福祉協議会等の地域のネットワークの中心となる施設があり、福祉祭りや地域の行事などに参加しています。また、老人会の食事会等にも参加していきたいと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が記入したものを会議にて見直し、職員の意見を出し合い仕上げました。また、前回外部評価を受けて、カンファレンスを充実していく取り組みや入居者の生活の充実のために趣味が行えるような環境作りを行っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、社会福祉協議会の会長や地域包括センター、民生委員、地域ネットワーク委員会推進委員、家族の出席があり、ホームの行事報告や要望、助言などが話し合われています。会議の出席者の助言や協力により、ボランティアの活用が増え入居者に楽しんでもらえる機会となっています。	○	会議の議事録が十分に整備されていないため、会議のレジュメとは別に会議録として記録を残されていくことが望まれます。また、会議をきっかけに、防災時の協力体制や地域への認知症について知ってもらうための取組みなど、更に地域との交流やサービスの向上に向けて活用することを期待します。

ニチイのほほえみ長原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時には、区役所にもよく足を運び、担当者に相談する機会がありましたが、地域包括センターと行き来する機会が増え、徐々に少なくなってきました。	○	市の担当職員との連携も重要と考え、今後区役所にも足を運び、情報交換からホームのサービスにつなげて行きたいと考えてられており、その取り組みが今後期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ほほえみ通信を発行し、郵送しています。入居者全員の家族が少なくとも月に1度は面会があり、直接個々の様子について伝えています。また、必要時には電話連絡をし、適時にその様子を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等に苦情窓口を明記すると共に、面会に来られたときに直接話を聞いています。また、定期的に懇親会を開催し、聞く機会があります。意見の入れやすいような意見箱を設置したいとも考えられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が相談に乗ったり、離職を最小限になるよう努力しています。異動や退職が多いときも、入居者には知られることのないようにし、混乱を避けるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修や入職時のホームでの研修があります。外部研修は、案内を紹介し自主的に参加してもらっています。受講した研修は資料を回覧し、スタッフ間で周知しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、情報交換をしたり勉強会に参加したりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能などときには、ホームに見学に来てもらい、他入居者とりビングで過ごしてもらっています。面談をしてから入居までに時間がないことも多く、入居してからゆっくりとコミュニケーションをとり、家族と連携を密にしながら馴染みの関係を築いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が以前経験してきたことを、生活をともにしながら教えてもらっています。「教えてもらう」という場面を大切にしたり、喜怒哀楽の表現が自然にできるように支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時に家族から情報を得たり、入居者の言動からその人の立場に立ち思いを理解しようと会議の場で検討しています。センター方式の記入も始めています。	○	センター方式を使用記入していますが、十分に活用できていません。必要な部分から介護計画の見直しのたびに見直し、思いの変化がわかりやすくなることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議では、本人の意向や家族の意見、必要時医師の意見を合わせ、介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに定期的に見直しを行っています。また、状態の変化があったときには、その都度の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて家族がホームに宿泊したり、一緒に食事をしたりできる体制があります。また、耳鼻科等のかかりつけ医への受診支援も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談しかかりつけ医を決めています。提携医は2週間に1度の往診があり、電話相談できる体制があります。必要時、歯科の往診も来てもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の受け入れも行ったことがあり、家族と医師と連絡を密にしながら、職員間でも話し合い連携をとりながら対応されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	“尊厳を守る”という理念を実践するためにも、丁寧な言葉遣いを心がけています。また、個人情報のファイル等は鍵つきの書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きる時間や寝る時間は決めておらず、日中も個々のペースで生活できるように、希望や意思を確認しながら支援しています。		

ニチイのほほえみ長原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者の能力に応じて、できることを一緒に食事の準備から後片付けまで一緒に行っています。	○	職員は食事を一緒にはとっておらず、また同じ食卓には着いていません。食材の注文や食費などの都合もありますが、一緒に買い物へ行き、同じ食事をとることも、入居者の楽しみのひとつになるような支援を期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めずに、午後の時間に希望に合わせて入浴することができます。個々にあわせて、同性介助やゆったりと入ってもらえるよう支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ等の日常生活での役割を持っている人や、書道や貼り絵などの趣味を楽しみとしている人など、個々の能力や好みに合った楽しみごとを支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日、車椅子の入居者と一緒に散歩や買い物に出かけています。毎月、ふれあい喫茶に出かけ、近隣の住人と顔なじみになる機会もあります。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り体制の取れない時には、一時的にユニットの鍵をかけることがありますが、日中は玄関、ユニットとも鍵をかけていません。入居者の希望に合わせて外に出る支援もしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度、消防署から来てもらい、避難訓練を行っています。避難先が向かいの施設であり、行事のときに異動する際には、避難時の移動方法を考えながら行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てたメニューに合わせ食材業者から食材が届き、それをホームで調理しています。食事摂取量や水分摂取量をチェックしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い明るいリビングと和室があり、温湿度の調整を行ったり、ソファを置いたりして居心地の良い居場所づくりを行っています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたなじみのものを持ってきてもらっています。テレビやたんす、いすなどの家具や、ぬいぐるみなどの飾りなどその人らしい空間作りをしています。		